

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
形態機能学 I (解剖生理学)		BNNSB1L04	20104	1前	1 (30)	必修
担当教員	奥田 のり美	実務歴	有	看護師として病院に21年		
概要	人の健康と生活に深く関わる学問である看護学においては、その生命・身体・疾患・生活などの側面に関与していく上で、人体の構造と機能についての理解が前提であり、これら人体の正常な構造と機能への理解の基盤の上に、病気の成り立ちへの理解や、診断・治療・看護への応用が成立するものである。ここでは、解剖学によって人体の形態と構造(各器官の位置関係や形状、内部構造)を学び、生理学(各器官の機能や人体における役割)によってその役割と機能を学ぶ。形態機能学 I では、まず基礎知識として形からみた人体、素材からみた人体、機能からみた人体を十分に理解したうえで、内臓機能の調節、身体の支持と運動、情報の受容と処理、身体機能の防御と適応、生殖と発生の仕組みを学ぶ。					
学修目標	1)人体を構成する素材とその性質を述べることができる。 2)各器官系の構造と機能、および器官系相互の関連を述べることができる。 3)生命維持や身体・精神活動の基礎的機序について述べることができる。					
DPとの対応	知をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容		
1	人体の構造と機能を学ぶ目的					
2	基礎知識①形からみた人体			P8～25講義後にまとめておく。		
3	基礎知識②素材からみた人体			P26～55講義後にまとめておく。		
4	基礎知識②③機能からみた人体			P55～62講義前に読む。講義後にまとめておく。		
5	基礎知識③機能からみた人体			上記、講義後にしっかりまとめておく。		
6	身体の防御と適応(皮膚の構造と機能、生体防御機構)			非特異的生体防御と特異的生体防御は図示しまとめておくこと。		
7	身体の防御と適応(代謝と運動、体温とその調節)			P480～491 講義前後に読む		
8	内臓機能の調節(自律神経による調節、内分泌系による調節)			交感神経と副交感神経の働きは講義前にまとめておくこと。		
9	内臓機能の調節(全身の内分泌腺と内分泌細胞)			P275～299は講義前後に必ず読みまとめる。		
10	内臓機能の調節(ホルモンによる調節)			P299～306は講義前後に必ず読みまとめる。		
11	情報の受容と処理(神経系の構造と機能、脳と脊髄)			P385～409は講義前後に必ず読みまとめる。		
12	情報の受容と処理(脊髄神経と脳神経、脳の高次脳機能)			脳神経の支配域は事前にまとめておく。		
13	情報の受容と処理(運動機能、感覚機能)			P430とP433の伝導路は事前に図示しておく。		
14	情報の受容と処理(眼、耳、味覚、痛み)			眼の構造と耳の構造は事前に図示しておく。		
15	生殖・発生と老化の仕組み			P495～535は講義後にまとめておく。		
使用テキスト	人体の構造と機能【1】解剖生理学、坂井建雄著、医学書院					
参考図書	授業内で適宜紹介します。					
成績評価基準	定期試験100%					